

## 公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和7年2月13日				
放課後児童クラブすずらん						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・活動によっては人数を分けたり、戸外での活動にしたり人数に対する場所の確保はしています。大きなスペースはありますが、個別指導する際に個室を確保することが難しい日があるため、活動内容の検討をしながら確保しています。	・現状では、しっかりとした別室の確保をするのは難しいため、活動内容によっては、仕切りを設けたり、学年で活動を分けたりして活動を進めています。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・職員数においては、配置基準を満たしています。受け入れの子どもの発達段階に応じて、職員体制が取れるようにしています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・バリアフリー化の配慮はしています。高学年の男児には男女兼用の体の大きさにあったトイレを使っています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・毎朝清掃の時間を設けて、職員で掃除をしたり、消毒をしたりしています。活動をする人数や活動内容に合わせて、大空間、小空間に分かれて活動するようにしています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・一人一人の個室は用意することができませんが、3つに分かれた部屋で対応するようにしています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・個別支援計画書会議、ケース会議、活動会議、毎月のミーティングなど多くの職員が参加し意見を出し合える環境をつくっています。業務改善を進めるために、より一層職員が発言できる場を設けています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・保護者にアンケートを行うことで、保護者の意見を踏まえて改善に努めています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・毎月のミーティングや年1回のアンケートで職員の意見を把握し、業務改善に繋げています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	・第三者による外部評価の実施は行っていないですが、鹿児島市からの指導監査という形で外部評価を受けています。	・今後法人全体での考えていきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・法定研修(虐待防止、身体拘束禁止、衛生)、事業所内研修(療育について、県内の状況、他事業所の療育等)を計画的に行っています。 ・今年度より、オンデマンド研修を取り入れ、一人一人のペースで毎月研修を行っています。 ・今年度は強度行動障害基礎研修を3人の職員が受講しました。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・毎月発行するすずらん通信で毎日の活動を保護者の方にお知らせをしています。今後、支援プログラム公表が義務化されますので、ホームページ上で公開します。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・事業所独自で作成したアセスメント表を使用して保護者に記入してもらって実施しています。・保護者が関係機関で受けた結果をすずらんにも開示してもらい参考にしていきます。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・児童発達支援管理責任者が作成した個別支援計画は、ケース会議で検討会を行い、職員全員で検討しています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・ケース会議を行う際に、個別支援計画の支援目標や支援内容を中心に、子どもの様子を1か月ごとにまとめ、職員全員で検討し、計画に沿った支援が行われているか、共通認識を持つようにしています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・標準化されたアセスメントは、発達支援センターや病院で受診した際に、受けた結果をこちらにも情報提供してもらい、使用しています。	・インフォーマルなアセスメントの使用は計画の時に、保護者に記入してもらい、活用していますが、日々の行動観察にしようしていないので、今後活用していきます。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・こども一人一人に応じた計画を立てさせていただいています。保護者の皆様とは必ず面談を行い、計画の内容を説明し、保護者の方のニーズ、本人の希望を入れて、必要な支援を計画しています。必ず半年に1回、評価を行い、今現在の子どもの様子の状況を把握し、再計画をたてるようにしています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・活動のプログラムに関して、毎月活動会議にて活動内容を決定し、活動日までに計画準備を行っています。子どもたちの一人ひとりの発達段階に応じ、同じ活動内容でも、その子の課題に応じた準備をしたり、スタッフの配置に配慮したりしています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・前月に活動内容を決定し、できるだけ活動プログラムが固定化しないようにしています。似たような内容が続く場合は、活動内容を考えて子どもたちの支援に生かせる活動を入れていきます。今年度は、下級生はすみれクラブの同級生と一緒に活動をする機会を多く設けました。中集団の中で、コミュニケーションを取ったり、ゲームのルールを守ったりする経験を増やすことができました。	・子どもたちの発達段階がそれぞれ違うので、その子に応じた活動内容を、さらに工夫して行きたいと思います。また、長く通っている子どもたちには、毎年同じ内容の活動をするということもあつて、活動内容がマンネリ化してしまう子どももあるので、活動内容を精査していきます。また上級生には「何をして過ごしたいか」と自分で活動を選択する力をつけていけるように支援していきます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		・個別活動と集団活動を組み合わせながら、計画作成を行っています。子どもの状況によって、グループを変えたり、活動内容を精査したりしています。また子どもたちが自主的に自分の取り組みたい活動を選択できるように自由遊びの時間を設けています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・支援開始前に職員間で必ず打ち合わせをし、療育の流れや担当について確認をしています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・支援終了後にはできないときは、次の日に振り返りをしたり、毎月のミーティングでも活動についての振り返りや気づいたことを共有したりするようにしています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・子どもの様子について利用した日には必ず記録をしています。個別記録も1人ひとりにファイルに綴り、支援の改善に努めています。また、毎月1回ケース会議を行う際に、1か月の記録を見直し、それぞれの課題やストリングスを表にして、職員全員で検討しています。	

関係機関や保護者との連携	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	・半年に1回、モニタリング後、個別支援計画の見直しをおこなっています。児童発達支援管理責任者が作成した個別支援計画書をケース会議などで職員全員で検討し、見直しを行うようにしています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせで支援を行っているか。	○	・ガイドラインに沿って、活動の組み合わせを考えるようにしています。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	・週に1回、セレクト活動の日を設けています。3つの活動の中から、自分でしたい活動や友達と一緒にしたい活動を選択して、スタッフが一緒に活動するようにしています。自分で活動を選択する力、一人で遊ぶべしなくても、友達となら一緒にできるかどうかを判断する力、友達を誘う力などを獲得できるように支援しています。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	・担当者会議には、児童発達支援管理責任者が参加しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	・こどもたちが通学している教育機関とは夏に情報交換会を毎年おこなっています。（今年度は開催できませんでした。）また子どもたちが通っている病院やセンターとは書面にて情報交換を行っています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	・年度初めに、学校に挨拶へ行き、利用児名簿を提出したり、学校連絡メールに登録させてもらい、学校との情報共有をしています。トラブルや下校決りがあった時は、直接学校とやり取りをすることを事前に保護者から承を得て、支援にあたっています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		・相談支援員の方から情報を提供してもらっていますが、通っていた事業所や園からの情報提供がまだ十分ではありません。	・児童発達支援事業所、保育園、幼稚園等との情報共有ができるように、連絡を取りたいと思います。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	・該当児童はいません。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	・地域のセンターの研修会に参加をしています。またSTの派遣をお願いすることがありますが、時期や職員体制の都合が合わずに実施が難しい状況でした。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	・同法人内の学童保育と合同で遠足や行事を行っています。また、普段の活動の中で一緒に遊んだり、避難訓練を行っています。	
保護者への説明等	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○	・協議会自体には参加はできていませんが、協議会主催の研修には参加しています。	・鹿児島市の自立支援協議会は該当市が大きく、こちらまで協議会の案内はきていません。ホームページ等で協議会の議事録に目を通しています。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	・普段のお迎え時に子どもたちの様子を伝えたり、年3回療育相談会を開き、子どもさんのついで悩みや相談を受け、一緒に発達の状況や課題について話をしています。また、保護者から急な相談事があった際は、電話や面談で時間をとって対応しています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	・平日のみしか開所していないため、ペアレント・トレーニング等の会を開催することができませんでした。	・外部講師を招聘してペアレントトレーニングが開催できるように検討したいと思います。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	・運営規定や支援の内容、利用者負担等については丁寧な説明を年度のはじめに、必ず保護者に行っています。	・すずらんの説明会に配布する資料を職員にも目を通してもらい、不明な所を説明するようにします。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	・計画書を作成する前に、保護者の皆様の意向、ニーズを聞き取ったり、独自のアセスメントシートに記入をしてもらったりして、保護者の思いを確認しています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	・4月の計画書をお渡しする時は、必ず対面で面談を行い、保護者に支援内容の説明をして、同意をいただいています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	・年に3回療育相談会を実施し、保護者の悩みや相談に応じています。その他にも、随時、いつでも悩み、相談に応じています。今年度は、進学に悩んでいらした保護者と特別支援学校の行事の見学にも行きました。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	・父母会はありませんが、例年、年2回の保護者懇談会を開き、保護者同士の連携支援を行っています。今年度は、学童保育すみれクラブと共催で「親子お茶会」、すずらんの課外活動に合わせて「ボーリング大会」を開催しました。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	・子どもや保護者から出た苦情に関しては、苦情処理簿に記録し、職員間で話し合い、迅速に解決できるようにしています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	・毎月の月案やお便り、きずノートを活用しながら保護者に対して発信しています。今年度は、コロナウイルス感染症も第5類に移行したため、感染対策をしながら、課外活動を行うことができ、その様子を月案でお知らせすることができました。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	・個人情報の取り扱いについては、個人に関わる書類等など鍵のかかる場所で保管をしています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	・法人全体で入っている連絡帳アプリ「きずノート」を活用し、お仕事でお忙しい保護者の方が、いつでも連絡ができるようにしています。 ・保護者の方の意思疎通に関しては、保護者の方が分かりやすいように、かみ砕いて説明をするようにしています。またそれでも難しい場合は相談支援専門員にも協力をもらって連携をとっています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	・以前は餅つき大会に地域の民生委員の方を招待して行っていました。餅つき大会は行っていません。また別の機会と一緒に活動できるような機会を持ちたいと思います。	・地域住民を招待する行事を事業所単位で行うことはなかなか難しいです。今後、同法人の保育園、学童保育と協力しながら課題として検討していきます。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	・各マニュアルは作成し、手に取れる事務所に掲示してあります。職員には、毎年4月の学童合同会議の際に、説明をしています。また、土砂災害警戒区域に敷地の一部がかかっているため、別に土砂災害の避難計画を作成しています。	・保護者の皆様へ、計画についての説明が十分ではない状況です。面談時に避難計画について説明ができるようにしていきます。

非常時等の対応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・業務継続計画（BCP）を策定します。それに基づき、研修も行っています。また施設が鹿児島市の土砂災害警戒区域に指定されているため、安全管理、非常災害体制とは別に計画を立て、鹿児島市に提出し、それに基づく避難訓練も行っています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・児童カードに子どもの状況を記入してもらい、確認をしています。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	・該当児童はいません。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・非常災害対策の計画をたて、毎月1回の避難訓練、鹿児島市の土砂災害警戒区域による訓練を行っています。 ・年に1回は、消防署立ち合い訓練を行い、指導、講評をいただいています。 ・また月1回、施設の安全点検を職員ペアで行い、清掃の必要性や不備があった場合は、環境整備の日に重点的に清掃を行ったり、修理を頼んだりしています。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・安全計画については、契約時（1年毎）に説明をしています。非常事態が起きた場合は、さっすノート、携帯電話、SMSで連携を取れるようにしています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・ヒヤリハットの記録簿を作成し、職員が記入できるようにしています。	・ミーティングやケース会議で話し合いを行い、職員で共有できるようにしていきます。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・年に1回、必ず虐待研修をしています。今年度は、身体拘束禁止の研修、個別の対応についての研修も行いました。また社会福祉士会が開催した障害者虐待防止、権利擁護研修を、職員全員でオンデマンド研修に参加しています。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		・小さなことでも、身体拘束、虐待にあたらないかを職員全体で話し合いを行い、個別に身体拘束に関する同意書を作成し、個別支援計画の面談時に保護者と確認をして、同意書を頂いています。	今年度は、身体拘束と認定される行為はありませんでした。今後も、子どもたちの状況に応じて、支援できるようにしていきます。